

HPの運用が始まり1年が経ちました。令和7年度より新たに居合道への関心が深まるような色々な情報を紹介していきたいと思えます。

内容に関しては刀に關すること、古武道に關すること、侍や當時の文化に關すること等々……です。

まず第一回からは「刀の歴史」について紹介します。

日本刀は「折れず」「曲がらず」「よく斬れる」といわれ世界でも類を見ないものですが、このようになるまでは長い年月の間、先人たちの智慧と努力で作上げてきたものです。

源流は間違いなく日本古代の刀劍にありますが古代の刀劍は直刀（刀身に反りがないもの）で劔と呼ばれていたものです。古くは神代にさかのぼります。

神代の名刀と伝えられている物に『草薙の神劔』があります。

我が国最高の国家鎮護の神劔として現在名古屋の熱田神宮の神宝として伝来しています。

では時代を追って刀劍の作りや形の変化などを紹介いたします。

刀劍は大きく分けて^{ちよくとうじだい}直刀時代と^{わんとうじだい}彎刀時代に分けられます。

直刀時代とは上代・奈良朝時代から平安朝時代前期までです。

彎刀時代は古刀時代・新刀時代・新々刀時代・現代刀時代と下記のように分類されています。

- ① 古刀時代　：平安朝時代・鎌倉時代・吉野朝時代・室町時代
- ② 新刀時代　：桃山時代・江戸時代
- ③ 新々刀時代：幕末時代・明治・大正・昭和時代（復古刀時代ともいわれる）

太刀の時代は平安朝時代から吉野朝時代。

刀・脇差時代は室町時代から幕末までです。

直刀時代

縄文時代—飛鳥時代

縄文時代ではわずかに石刀、石劔をみるのみで主に狩獵に用いられたと考えられます。

弥生時代にはいと稲作農業が始まり大陸から金属器文化が流入するようになります。

鉄、青銅、石の併用時代に入るが銅器の使用は大陸に比べるとその期間は短く銅劔や銅鉾は宗教的、儀礼的な使用が主であったと考えられています（鉄器への移行が早かった）。

古墳時代に入ると郡小国家の統一のための戦闘が行われ武器も飛躍的な発達を遂げます。

古墳時代初期は両刃の鉄劔が多く作られ中期以降は一歩進んだ片刃の直刀（刀身に反りがないもの）が制作されるようになります。直刀は、それまでの両刃の劔を正中線で両断した形となっています。

大和朝廷が成立すると朝鮮半島との交流を通じて鍛冶の技術も伝わり日本古来の鍛冶技術に影響を与え新しい日本の鍛冶技術が生まれました。

* 我が国古来の鍛冶は^{やまとかねちべ}倭鍛冶部、これに対して朝鮮半島や大陸からの鍛冶は^{からかねち}韓鍛冶、^{あやかねち}漢鍛冶と呼ばれて

います。倭鍛冶部の技術に韓鍛冶の優れたところを取り入れて融合大成への道をたどったものと考えられます。

奈良時代

この時代は蝦夷征夷軍の派遣や*しやくしん 肅慎との交戦があり武器の発達が目覚ましいものがあり和漢の鍛造技術も多く戦闘を通じて融合し洗練され飛鳥時代に比べ小ぶりの独特の直刀形式が確立されました。初期には平造りの直刀でしたが斬撃に有効な切刃造りの直刀へ変化してきました。刀が小振りになったのは切れ味が良くなり軽い刀でも良く斬れるようになったからです。

直刀の断面



平造り



切刃造り

次回から彎刀時代について説明いたします。

文責：松成初博

参考文献

日本刀：岩波新書 本間順治

日本刀の歴史：金園社 常石英明

日本刀辞典：光芸出版 得能一男

古代の刀剣：吉川弘文館 小池信彦